

学校マネジメント

目標達成マネジメントツールの一層の活用

[取組事例] 国東市立安岐小学校、児童数210名、別府教育事務所管内

ポイント

取組指標の頻度が明確で、数値化された客観的なデータによる検証や改善が見える「学校評価の4点セット」

1. 取組の内容

「学校評価の4点セット」

27年度末、別府教育事務所より28年度版「学校評価の4点セット」の様式例及びその作成における留意点を示した。それを具備した様式とした上で、「徹底項目と評価」の欄を学校独自に設けている。

【資料1：「学校評価の4点セット（上段）」】

重点目標	担当	達成指標	分担	重点的取組	取組指標	徹底項目と評価		改善点	
						取組状況の評価	達成状況の評価		
						1学期	1学期		
主体的に考え・行動する	研究主任（） 主	①単元テスト【1・2年】 国語・算数の単元テストで、それぞれ平均点85点以上。 【3～6年】 国語・算数・社会・理科の単元テストで、それぞれ平均点80点以上。 ※児童アンケートの回答について以下のことをめざす。(A・B回答とは「いつも/だいたい/できていない」) ②発表【1学期】 自分の考えを発表できる子ども70%以上。(A・B回答) 【2・3学期】 自分の考えと友だちの考えを比べて意見が書ける子ども80%以上。(A・B回答)	学校	◎課題の解決に向けた、主体的・協働的授業に取り組む。 ～ユニバーサルな視点を大切にしたい授業の推進～	【担任・専科教員等】 ・ペア・グループ学習を1日1回以上取り入れる。 ・意見の違いを生む授業を、週2回以上、77% ・安岐小スタンダードの徹底と互見授業の実施。60% 【PJ・運営委員会・職員会】 ・月末の児童アンケート(意識調査)の結果をもとに、プロジェクト会議・運営委員会でPDCAを繰り返す。	・ペア・グループ学習を1日1回以上。100% ・意見の違いを生む授業を、週2回以上、77% ・安岐小スタンダードの徹底と互見授業の実施。60% ・月末の児童アンケート結果の検証と改善策の策定。100%			◎9月の校内研修で、1時間の授業の中で、いつペア・グループ学習を取り入れると効果的かについて出し合い、まとめたものを安岐小スタンダードに位置づける。 ◎国語・算数・理科、学級活動を中心として、意見の違いを生む話し合い活動を取り入れていく。 ◎校長等による授業観察カードをもとにした授業観察と指導。 ◎単元テストで、1・2年は85点、3～6年は80点に達していない子どもについては、チャレンジタイムの時間や放課後に個別指導を行う。
				◎習熟度に応じた指導を実施する。	・4年生以上の算数で習熟度別授業を実施する。(90%以上の時間で実施)	・単元テストのデータ集約と個別指導。80%	◎どちらのコースを選んで、同じ到達点(まとめ)に行けるように、毎時間、両コースの連携(ワークシート・板書等)を密にする。		
				◎宿題の提出率100%	・家庭と連携して、提出100%に取り組む。	・宿題の提出100%→95%	◎100%提出可能な宿題の内容(①その日の復習問題、②過去に学習した内容、③自力で解ける問題)と量を工夫するとともに、家庭との連携を強化(連絡帳・電話等)し、未提出の子どもへの声かけと指導を行う。		
				◎「安岐小家庭学習の手引き」をもとに、「安岐っ子ががんばり表」を活用して、家庭学習の徹底を図る。	・毎月の「安岐っ子ががんばり表」に、保護者が子どもへの励ましのコメントを書く。 (毎月第2週目実施)	・子どもへのコメント書き 85%	◎「安岐っ子ががんばり表」のコメントの好事例等を学便りや学級通信等で紹介する。		
				◎学びの教室で、参加する子どもたちに補充学習をする。	・放課後学びの教室、年間35回実施。	・「学びの教室連絡ノート」での学習確認。100%			
				◎学校公開日(毎月19日)に参加する。2学期、保護者以外の参加者目標30名。			◎校長が、老人会等に、学校公開日への参加を呼びかける。加えて、給食の試食会(1月)を行う。		

【資料2：「学校評価の4点セット（下段）」】

する子どもの育成(自分から進んでする子ども)	生徒指導主任(自分から進んでする子ども)	学校	家庭	地域	学校	家庭	地域
◎児童アンケートの回答について以下のことをめざす。(A・B回答とは「いつも/だいたい/できていない」)							
◎児童アンケートの回答について以下のことをめざす。(A・B回答とは「いつも/だいたい/できていない」)							

2. 取組についての評価等

- 達成指標が、子どもの変容の姿で検証でき、数値による検証可能な指標を立てている
- 数値化された客観的データに基づく検証・改善ができるように作成されている
- 取組指標及びその徹底項目が具体的であるため、教職員が重点目標達成のために何をやらなければならないか明確化されている
- 家庭・地域との協働を位置付けた「学校評価の4点セット」になっており、家庭・地域の主体的立場で書かれている